

1. 具体的計画性

自殺を具体的に計画している状況は、自殺の危険性が高いと判断される。

1) 時期を計画している

例) 「〇月〇日に」とか「〇の記念日に…」等

2) 手段・方法を計画している、確保している

例) 練炭を買っている、ロープを用意している等

2. 出現時期・持続性

衝動的に高まる、あるいは変動が激しく制御不能、慢性的に、あるいは日常的に持続し消滅しない、等は危険性が高い。

3. 強度

強く確信的な希死念慮・自殺念慮は危険性が高い。

4. 客観的要素

本人が言明していなくても、希死念慮・自殺念慮が周囲から見て明らかな場合、あるいはそれらがあるのに否定する場合は危険性が高い。

v) 危険因子の確認

自殺念慮を認めた場合はいうまでもなく、自殺念慮を否定している場合でも、自殺の危険因子を認めた場合は自殺の再企図の危険性が高いと考える必要がある。

過去の自殺企図・自傷行為歴

喪失体験

身近な者との死別体験など

苦痛な体験

いじめ、家庭問題など

職業問題・経済問題・生活問題

失業、リストラ、多重債務、生活苦、生活への困難感、不安定な日常生活

精神疾患・身体疾患の罹患およびそれらに対する悩み

うつ病、身体疾患での病苦など

ソーシャルサポートの欠如

支援者の不在、喪失など

企図手段への容易なアクセス

「農薬、硫化水素などを保持している」、「薬をためこんでいる」など

自殺につながりやすい心理状態

絶望感、衝動性、自殺念慮・希死念慮、孤立感、易怒性、悲嘆、不安など

家族歴

その他

診療や本人・家族・周囲から得られる危険性